

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102312		
法人名	有限会社 ブロンディ		
事業所名	グループホーム ブロンディ		
所在地	030-0847 青森市東大野1丁目21-2		
自己評価作成日	平成30年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意思を尊重し、やりたい事、出来る事、いきたいところの把握(思いの理解)に努め、日々の生活を大切に、楽しんでもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にあり、徒歩圏内に公園や商業施設が多い環境を活かし、日常的に散歩や外出できるよう支援している。個別ケアを通し、一人ひとりの生活を大切に考え、理念の一つである「意志や感情を尊重しその人らしく暮らせるよう支援します。」を常に意識し、入居者本位のケアに取り組んでいる。また、動物愛護センターの動物のふれあいを通したアニマルセラピーもケアに取り入れている。医療機関と密接な関係があり、医療との連携が構築されていることから、看取りケアを積極的に行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内にスタッフが毎日確認できるよう提示し、カンファレンスや事例検討会等をとおして理念の共有に努めている。	理念は毎年、入居者やスタッフの状況に合わせて見直しを行い、事務所内に掲示し、日々のOJTを通し共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園の草刈りやゴミ拾いを事業所で行っている。町内の夏祭りには野菜の切り出しや準備等で参加している。地域からの慰問やボランティアを受け入れている。	町内会に加入し、町内の行事を手伝ったり公園の草刈りやごみ拾いを行っている。散歩中も見かけると気軽に声を掛けてくれる関係性が築かれ、地域の一員として、日常的に交流することができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要時相談に乗っている。近隣の高校や大学等からの見学や実習も受け入れている。町内の女性部に「介護保険について」や「介護施設について」講演をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、ご家族からの意見や助言を受け、ホーム内での活動やサービスに反映させている。	2ヶ月に1回開催している。町会長、民生委員、家族代表、入居者、地域包括支援センター職員が参加されている。会議では入居者の状況や行事などを報告し、意見を頂きながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時相談にも乗ってもらい、助言をいただいている。	必要時はいつでも相談できる協力体制があり、実際に助言を頂き対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から玄関の施錠はしない方針であるが、その他、身体拘束適正化委員会の発足とともに研修を行い、日々身体拘束をすることの無いように努めている。	3ヶ月に1回会議を開催し、ケア方法の検討を行い、事業所内でも年2回研修会を開催している。個別検討の時は家族にも参加して頂き、家族の意向も含め、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上、虐待の内部研修や事例検討会を行い、機会があれば外部の研修にも参加できるようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に取り入れ、必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の時にも十分に時間を取って説明し、必要時何度でも説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者だけでなくスタッフからも声をかけるようにし、話せる機会を設けている。支払い時に最近の様子を報告するとともにご家族からの意見や要望、不安等を聞けるようにしている。	玄関にアンケート用紙と、投函ボックスを設置している。その他、毎月の支払に訪問して頂いた際に、日常生活の報告を行うとともに、意見や要望の聞き取りを行っている。入居者には日々の会話から聞き取りを行い、業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時などに話したり、必要時スタッフと会話をできる時間を設けるよう努めている。	カンファレンス以外でも日々の業務で行き詰った時は、すぐに相談や検討できる体制が整っており、業務に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料、賞与に反映してくれている。それぞれの生活のサイクルも考慮し、勤務状態も柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の提示、社内研修の充実等で学習の機会を設け、資格取得機会も提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から管理者だけが面会に行くのではなく、できるだけスタッフも面会の機会を設けたり、事前に見学に来ていただく等入居前から関係作りができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初面会時での細かい話し合い聞く機会を設け、その後も家族との会話の中で話してもらえるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが本人にとって最適ではないと考えられる場合、必要に応じて他のサービスに関しての情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが共に過ごすことの必要性を理解しており、日々調理、献立作りを一緒に行ったり、役割を持って生活していけるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人の距離感を確認しながら、できるだけ協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	歯科・眼科受診、散髪等の理美容院への外出援助、馴染みの場所へ継続していけるよう援助している。	家族の協力も得ながら、入居前から通っていた美容室へ出かけたり、本人の希望で通所事業所を継続利用できるよう支援している。また知人の訪問もあり、気軽に訪問して頂けるよう働きかけにも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を重視し、なじみの関係作りができるよう、お互いに認め合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方や、亡くなった方のご家族にも声をかけて夏祭りに来ていただいている。外出先であった際は迷惑にならない様に声をかけさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通して把握できるよう努めている。必要時時間を取ってもらい、家族にも確認できるようにしている。	日々のコミュニケーションを大切にし、意見が出しやすいような環境づくりにも心がけている。入浴時や外出時などに本人の思いや意向を引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの細かい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での観察を行うとともに、受診時には医療からのアドバイスも受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、看護師と話し合い作成している。	毎月モニタリングを実施している。それを基に本人、家族、主治医、看護師、スタッフの意見も取り入れ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要時別紙を設ける等して、記録、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の希望に対応できるよう、実績がなければどうすれば提供できるかを検討し、支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要な時には、地域資源を活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、看護師に相談できる体制があり、本人や家族の希望に合わせて受診できるようにしている。	協力医が入居前から元々かかりつけ医であるため、入居後も変更なく継続されている。適切な医療が受けられるよう、症状に合わせた専門科の受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時行っている。必要時に指示、指導を受け、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携しているため、主治医や看護師との連携、相談ができ、入院が最小限となるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族との話し合いを十分に設け、意向を確認しながら行っている。チーム内での指導も随時行っている。	スタッフに対する看取りケア研修等を行い、医療連携体制を整え、積極的に取り組んでいる。入居者が重度化した時、看取りケアを行う際には、主治医も話し合いに参加し、説明を行い、本人、家族の気持ちへ配慮した支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度も消防にお願いし、内部研修実施済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方たちにも協力をお願いしている。定期的な避難訓練の行う。また、避難だけでなく非常災害時の食事もシュミレーションして実際に行っている。	火災のみならず、地震も想定し避難訓練を実施している。緊急時の対応、連絡体制が明記された用紙は電話機の近くに収納されていることは、全スタッフが把握している、その他に毎月の事業所内研修時に避難場所の確認を行ったり、町内会女性部にも口頭だが、協力を確認し災害時に備えている。	口頭での協力依頼だけではなく、災害時の支援をして頂ける地域住民を明確にし、連絡体制を構築することでサポート体制が拡大、強化されることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気を付け、個別性を持って対応している。必要時指導している。	本人の言動から意思や感情を推測し対応することで、尊厳やプライバシーの確保をしている。個々の居室のドアが解放されているが、本人または家族からの希望で対応している現状がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で要望を受け、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を把握するとともにできるだけ対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する理美容院へ行けるように支援したり、個々にあったおしゃれができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることをしてもらいながら、楽しみとなるように行っている。	日々の生活では食事の下ごしらえや後片付けを入居者と一緒に行ったり、季節や役割を感じて頂けるよう、干し柿や漬物作りは毎年入居者が中心となり行うことで食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合わせた食事形態を提供できるようにし、医療職からも助言をもらいながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の持てる機能を利用しながら、無理強いすることの無いように、個人に合わせて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の状況に合わせているが、おむつ類はできるだけ使用しなくてもいいようにし皮膚状態の把握も努力している。	排泄チェック表と行動からアセスメントを行い、おむつを使用せず、できる限りトイレで排泄できるよう努めている。排泄時間を定めず、個々の排泄パターンに合わせた誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各個人の状況に合わせて支援できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に入浴は毎日対応している。個人の希望を優先できるようにしている。	週2回の入浴を基本とするが、個々の要望に合わせて対応している。足浴は保清目的以外に、リラックスや安眠の促しなどで取り入れている。どのような身体状況でも湯船に浸かれる介助方法を工夫し、入浴を楽しめる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具も本人の希望に添えるよう支援し、睡眠パターンを把握に努め、生かせるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の変更があった際には申し送りを徹底するとともに、副作用がないか、服薬後に変化はないかを確認、観察するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の状況を把握し、それぞれに対応できるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の状況を把握しながら、できるだけ支援できるよう努力している。	行事での外出は家族にも協力を依頼し、一緒に出掛けている。日常的にも近所のコンビニエンスストアや公園には、いつでも外出できるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも確認・報告をするとともに、本人の状態に応じて持っていられるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を確認し、希望時に常に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を重視し行事をしたり、急に大きな音を立てない等努力している。	各居室やホールはエアコンと床暖房で温度管理をしている。心地よさの一つとして、音を意識しテレビや音楽などは音量に配慮している。ロールカーテンを使用し、光の入りを調整するなど居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の状況に合わせ、入居者同士の関係性を確認しながら行うよう努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に添えるよう、状況に応じて工夫している。	入居後に好みの物が変わることが多いため、必要時はスタッフが家族へ持参を依頼している。本人の好みを尊重し、入居者一人ひとりが落ち着いて過ごせる居場所づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室のドアに目印をつけ部屋がわかるようにしたり、本人の状況に合わせて行っている。		